

研究分野のキーワード：教育課程，学力，教育内容の社会的決定，授業づくり

研究紹介

主として三つの研究テーマを追求しています。

一つは、教えるべき内容は、なぜ教えるべき内容と「なる」のかに関するものです。世の中にある知識や技術あるいは芸術のすべてを教えたり学んだりすることはできません。一部分だけを学校では取り上げることになります。だから、教えることになるものと、そうはならないものがあります。この区別は何によってなされるのか、その「なる」要件としての社会的要請があると考えられます。また、それだけではなくて、教え学ぶことの成立とそれらはどのように係わるのかについて研究をしています。

二つは、教える内容・教材をいかにつくるのか、その作成過程についての研究を行っています。理科ではタンポポが生物の教材として取り上げられることが多いのですが、他の植物でもいいのに、なぜタンポポになったのか。それを学びの対象とするために、教師はただタンポポを提示するだけではなくて、一連の教材として提出していきます。その教材を並べる原則や作成の原則について研究を行っています。

三つは、教え学ぶという教師と子どもの行為と関係についての研究を行っています。学校における授業は、知識や技術が伝えられていく過程というだけではなくて、その場に参加するものとの間の相互行為であり、相互関係が形成されていく過程です。望ましい相互行為や相互関係とその展開過程についての研究を行っています。

主著：『「学び」の学校』、ミネルヴァ書房。

『反・教育入門』、白澤社。

『リスク社会の授業づくり』、白澤社。